

テーマ くしゃみ・鼻水・鼻閉 平成28年度漢方医学講座・臨床講座

くしゃみ・鼻水・鼻閉：アレルギー性鼻炎の病態と治療 —気管支喘息との関連を含めて

国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授/
山王病院 アレルギー内科

足立 満

(平成29年1月15日収録)

本日は、くしゃみ・鼻水・鼻閉・鼻づまり。アレルギー性鼻炎の病態と診断と治療についてお話しします。私自身は耳鼻科専門医ではありませんので、ガイドラインに沿ったアレルギー性鼻炎の話をさせていただきますが、本来の専門である喘息との関連についてもお話をさせていただき、上気道のアレルギーであるアレルギー性鼻炎・花粉症と、下気道のアレルギーである喘息とが深くリンクしているということについて、お話させていただければと思います。

アレルギー性鼻炎の基礎知識

◆アレルギー性鼻炎の疫学

これは2016年の鼻アレルギー診療ガイドラインで示されているものです。ダニ、室内塵、ペット、カビ類といった通年性アレルギー性鼻炎の有病率は23.4%ですが、全国的にはスギ花粉症の有病率は26.5%、スギ花粉症以外の花粉症有病率は15.4%、花粉症全体の有病率は29.8%。そしてアレルギー性鼻炎全体の有病率が4割といわれています¹⁾。

このアレルギー性鼻炎をはじめとして、喘息・皮膚炎など、諸々のアレルギー疾患は、今や国民の2人に1人といわれています。

◆花粉症の原因植物

さて、花粉症の原因植物ですが、樹木、草木があり、日本では60種類以上あるとされています。主なものとしては、スギ、ヒノキ、カモガヤ、ブタクサ、シラカンバ、ハンノキなどがあります。本州、四国、九州では一番の原因はスギとヒノキです。スギやヒノキの花粉は大量に風によって数十キロあるいはデータによると百キロ近く飛ぶので、どこにいても花粉症対策をしっかり行うことが大切だといわれています。北海道や沖縄ではスギが少ないので、スギによる花粉症はあまりありません。しかし、北海道ではシラカンバやハンノキなど、スギに代わる多くの花粉症が存在します。

◆スギ花粉は1月下旬に飛び始めます

一般的にスギ花粉は、九州や関東では1月下旬から。関西では2月上旬から飛び始めます。花粉が飛び始める2週間くらい前から治療を開始する初期療法は、最も効果があるとされています。そのため1月中旬までに、医師に相談して患者さんの生活スタイルに合った花粉症対策を始めることが重要です。日本は南北に長いので、地域によって気候に差があります。そのため花粉の飛散時期はテレビや新聞、インターネットの花粉情報にもご注意ください。

◆スギ・ヒノキの花粉と飛散期

よく知られているスギの花粉です。これは電頭でみたものです(図1・カラー88頁)²⁾。飛散するのは1月下旬から4月いっぱいまでです。スギ、ヒノキ両方に反応する方が多いのですが、ヒノキは3月上旬から5月上旬、関東では2月上旬から飛散します。スギ、ヒノキ両方で、1月下旬から5月上旬まで症状には苦しめられることになります。

◆スギ・ヒノキの開花期

スギ、ヒノキの開花期を地域別にみたものです(図2・カラー88頁)²⁾。4月には、ほとんど全国で、スギの開花があります。メインはスギでは2月、3月、

表1 鼻炎の分類

1. 感染性
a. 急性鼻炎、b. 慢性鼻炎
2. 過敏性非感染性
a. 複合型(鼻過敏症): i) アレルギー性: 通年性アレルギー性鼻炎、季節性アレルギー性鼻炎 ii) 非アレルギー性: 血管運動性(本態性)鼻炎、好酸球増多性鼻炎
b. 鼻漏型: 味覚性鼻炎、冷気吸入性鼻炎、老人性鼻炎
c. うっ血型: 薬物性鼻炎、心因性鼻炎、妊娠性鼻炎、内分泌性鼻炎、寒冷性鼻炎
d. 乾燥型: 乾燥性鼻炎
3. 刺激性
a. 物理性鼻炎、b. 化学性鼻炎、c. 放射線性鼻炎
4. その他
a. 萎縮性鼻炎、b. 特異性肉芽腫性鼻炎

2の過敏性非感染性鼻炎は過敏性亢進があるが、a. i)のアレルギー性を除くと本来の意味の炎症ではない。鼻炎の分類から除き、アレルギー性鼻炎類縁疾患、過敏性疾患とする方が合理的だが、臨床における便宜的な使用も許容されると考えて分類に入れた。血管運動性鼻炎は国際分類では原因不明として本態性と呼ばれているが、今までの慣用に従ってこの名称を使った。4a、4bは1bの慢性鼻炎に入るべきだが現在では数も少なく、便宜的に2つに分類した。

(鼻アレルギー診療ガイドライン作成委員会作成、

鼻アレルギー診療ガイドライン-通年性鼻炎と花粉症-2016年版(改訂版8版)(ライフ・サイエンス)2015)

4月。そしてヒノキでは3月、4月、5月ということになります。地域によって差があります。

鼻アレルギー診療ガイドライン(2016年度版)(図3・カラー88頁)¹⁾

2016年度版、最新版の鼻アレルギー診療ガイドラインに基づいてお話させていただきます。

■病態・診断

◆鼻炎の分類(表1)

まず鼻炎の分類です¹⁾。